

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第3部門第2区分  
 【発行日】平成20年3月27日(2008.3.27)

【公表番号】特表2003-520214(P2003-520214A)

【公表日】平成15年7月2日(2003.7.2)

【出願番号】特願2001-552725(P2001-552725)

【国際特許分類】

C 0 7 K 19/00 (2006.01)  
 A 6 1 P 1/00 (2006.01)  
 A 6 1 P 3/10 (2006.01)  
 A 6 1 P 11/06 (2006.01)  
 A 6 1 P 19/02 (2006.01)  
 A 6 1 P 25/00 (2006.01)  
 A 6 1 P 29/00 (2006.01)  
 A 6 1 P 35/00 (2006.01)  
 A 6 1 P 37/02 (2006.01)  
 C 0 7 K 14/47 (2006.01)  
 C 0 7 K 14/525 (2006.01)  
 C 0 7 K 16/28 (2006.01)  
 C 1 2 N 5/10 (2006.01)  
 A 6 1 K 38/00 (2006.01)  
 C 1 2 R 1/91 (2006.01)

【F I】

C 0 7 K 19/00  
 A 6 1 P 1/00  
 A 6 1 P 3/10  
 A 6 1 P 11/06  
 A 6 1 P 19/02  
 A 6 1 P 25/00  
 A 6 1 P 29/00  
 A 6 1 P 29/00 1 0 1  
 A 6 1 P 35/00  
 A 6 1 P 37/02  
 C 0 7 K 14/47  
 C 0 7 K 14/525  
 C 0 7 K 16/28  
 C 1 2 N 5/00 B  
 A 6 1 K 37/02  
 C 1 2 N 5/00 B  
 C 1 2 R 1:91

【手続補正書】

【提出日】平成20年1月23日(2008.1.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 (i)アポトーシス誘導分子、及び(ii)アビジン、ストレプトアビジンおよび抗体又は抗体断片から成る群から選択される結合対のメンバーを含んで成るキメラタンパク質。

【請求項 2】 前記アポトーシス誘導分子が、Fas L、TNF、TWEAK及びTRAILから成る群から選択される、請求項 1 記載のキメラタンパク質。

【請求項 3】 前記結合対のメンバーが、ストレプトアビジンおよびアビジンから成る群から選択される、請求項 1 又は 2 記載のキメラタンパク質。

【請求項 4】 前記結合対のメンバーが、抗体または抗体断片である、請求項 1、2 又は 3 のいずれか一項に記載のキメラタンパク質。

【請求項 5】 抗体又は抗体断片がデスレセプターを発現する細胞に特異的に結合する、請求項 4 に記載のキメラタンパク質。

【請求項 6】 デスレセプターを発現する細胞が活性化リンパ球である、請求項 5 に記載のキメラタンパク質。

【請求項 7】 デスレセプターを発現する細胞においてアポトーシスを誘導する方法であって、当該細胞を有効量の請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載のキメラタンパク質に生体外で暴露させることを含んで成る前記方法。

【請求項 8】 前記細胞が活性化リンパ球である請求項 7 記載の方法。

【請求項 9】 デスレセプターを発現するヒト以外の哺乳動物の細胞においてアポトーシスを誘導する方法であって、当該細胞を有効量の請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載のキメラタンパク質にインビボで暴露させることを含んで成る前記方法。

【請求項 10】 請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載のキメラタンパク質を含んで成る、活性化リンパ球のアポトーシスによって緩和される症状を持つ哺乳動物において免疫調節を誘導するための医薬組成物。

【請求項 11】 前記症状が喘息、アレルギー、食中毒、自己免疫症状および同種もしくは異種の細胞片、臓器片又は組織片の移植から成る群から選択される、請求項 10 記載の医薬組成物。

【請求項 12】 前記症状が糖尿病、多発性硬化症、エリテマトーデス、類肉腫症および関節リュウマチから成る群から選択される請求項 10 記載の医薬組成物。

【請求項 13】 請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載のキメラタンパク質に結合したエフェクター細胞。

【請求項 14】 前記細胞を、請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載のキメラタンパク質に結合したエフェクター細胞に暴露する、請求項 7 又は 8 に記載の方法。

【請求項 15】 請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載のキメラタンパク質に結合した固体マトリックスを含んで成る基材。

【請求項 16】 前記固体マトリックスはアガロースビーズである請求項 15 に記載の基材。

【請求項 17】 (a)ヒト以外の哺乳動物からのリンパ球の除去；

(b)当該リンパ球の、請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載のキメラタンパク質に結合した固体マトリックスを含んで成る基材への暴露；および

(c)当該ヒト以外の哺乳動物へのリンパ球の戻し；  
を含んで成るヒト以外の哺乳動物における免疫寛容の誘導方法。

【請求項 18】 アポトーシス誘導タンパク質がデスレセプターを発現する細胞に結合する、請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載のキメラタンパク質。

【請求項 19】 結合対のメンバーがデスレセプターを発現する細胞に結合する、請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載のキメラタンパク質。

【請求項 20】 キメラタンパク質が 4 量体を形成する、請求項 1 に記載のキメラタンパク質。

【請求項 21】 デスレセプターを発現する細胞においてアポトーシスを誘導する方法であって、当該細胞を有効量の請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載のキメラタンパク質と生体外で接触させることを含んで成る、前記方法。

【請求項 2 2】 デスレセプターを発現するヒト以外の哺乳動物の細胞においてアポトーシスを誘導する方法であって、当該細胞を有効量の請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載のキメラタンパク質とインビボで接触させることを含んで成る、前記方法。

【請求項 2 3】 実施例に関して本明細書中で実質的に記載したキメラタンパク質。

【請求項 2 4】 結合対のメンバーがストレプトアビジンである、請求項 1 に記載のキメラタンパク質。

【請求項 2 5】 ストレプトアビジンがコアストレプトアビジンである、請求項 2 4 に記載のキメラタンパク質。

【請求項 2 6】 アポトーシス誘導タンパク質がFasLである、請求項 2 に記載のキメラタンパク質。

【請求項 2 7】 FasLがmFasLである、請求項 2 6 に記載のキメラタンパク質。

【請求項 2 8】 デスレセプターを発現する細胞がビオチン化され、結合対のメンバーがアビジンまたはストレプトアビジンである、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 2 9】 結合対のメンバーがコアストレプトアビジンである、請求項 2 8 に記載の方法。

【請求項 3 0】 デスレセプターを発現する細胞が活性化リンパ球である、請求項 2 8 に記載の方法。

【請求項 3 1】 デスレセプターを発現する細胞がビオチン化され、結合対のメンバーがアビジンまたはストレプトアビジンである、請求項 1 0 に記載の医薬組成物。

【請求項 3 2】 結合対のメンバーがコアストレプトアビジンである、請求項 3 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 3 3】 デスレセプターを発現する細胞が活性化リンパ球である、請求項 3 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 3 4】 前記細胞がビオチン化され、結合対のメンバーがアビジンまたはストレプトアビジンである、請求項 1 3 に記載のエフェクター細胞。

【請求項 3 5】 固体マトリックスがビオチン化され、結合対のメンバーがアビジンまたはストレプトアビジンである、請求項 1 5 に記載の基材。